

「観戦のきっかけ作って」

浦和レッズの事例に学ぶ

富山・講演会

スポーツを通じて街と和フットボール通信を元気にしようと、「浦」社代表、梶沢佑一さんで元気な街になるためには」
フットボール通信社代表取締役

梶沢 佑一 氏



スポーツを生かした街づくりについて語る梶沢佑一さん＝富山市桜橋通りの富山電気ビルで

ん(35)＝埼玉県在住による「富山がスポーツで元気な街になるためには」と題した講演会が11日、富山市桜橋通りの富山電気ビルで開かれ、約40人が耳を傾けた。

梶沢さんは、中学2年の時にJリーグがスタートし、地元・浦和レッズの熱心なサポーターに。2007年、さいたま市の創業支援を受けて会社を設立して同通信を発行、現在は56号に至る。行政、市民、商店街、レッズと共にさまざまなサッカー関連のイベントを企画して街の盛り上げに一役買っている。

講演会は、カタール富山がJ3に降格したことから、周囲のサポートや市民の新しい視

点でチームを盛り上げようと、NPO法人富山スポーツコミュニティ・シヨンス(佐伯仁史理事長)が開催した。

梶沢さんは浦和でサッカーが盛んな理由について、1908年に埼玉大の前身の師範学校にサッカー部が誕生して以来、サッカーを通じて子供を育てる風土があると説明。そのうえで、「サッカーだけでなくスポーツ全体に関わることや、地元

住民がアイデンティティを持ってチームを支えることが必要」と主張した。さらに「富山には特徴的な公共交通機関や食など豊富な地元の素材があるので、それらを生かして

チームの応援に来てもらえるきっかけを作ってほしい」とアドバイスした。【青山郁子】

掲載写真

販売します

電話09663468005